

会派視察報告書

会派名：至誠クラブ

参加者：山田慶勝 筒井 登 神谷雅章
磯部雅弘 藤井基夫 黒辺一彦

視察先：10月17日 群馬県藤岡市

10月18日 千葉県佐倉市

10月19日 静岡県富士市

【1日目】

群馬県藤岡市

「多野藤岡医療事務市町村組合、公立藤岡総合病院の運営について」

【日時】平成30年10月17日（水） 13時30分～15時30分

【場所】公立藤岡総合病院



1. 藤岡市の概要

現在の藤岡市は、2006年に鬼石町の編入によって拡大したもので、合併後の市域は、旧南甘楽郡美原村を除く旧緑野郡（両郡は後に多胡郡と合併し多野郡）の大半に及ぶ広大な領域となっている。

2. 調査事項の概要

独立行政法人とは、国（県、市）が主体となって直接運営する必要はないが、民間になると無くなってしまいそうな分野（無くなってしまっは困る分野）を担当する法人。資産や原資は税金で賄われたが、法人設立後の運営は民間と同じく独立採算で行われる団体のこと。

病院概要

名称：公立藤岡総合病院

所在地：群馬県藤岡市中栗須813番地1

開設者：多野藤岡医療事務市町村組合

管理者：新井雅博（藤岡市長）

構成市町村：藤岡市・上野村・神流町・高崎市

病院長：石崎政利

診療科目：内科外科を始めとする29科目

病床数：一般395床・感染症4床

施設：敷地面積 57,285.91m²

建築面積：11,833.99m²

延面積：34,526.62m²

構造：鉄筋コンクリート造（診療部は基礎免震構造・外来部は基礎耐震構造）

組合議会議員構成：

藤岡市11名、上野村1名、神流町1名、高崎市3名、知識経験者3名 計19名で構成



3. 主な質疑とその回答

① 独立行政法人でなく、医療事務組合とされた理由は何ですか。

A. 昭和25年医療事務町村組合を設立、この地域が山間僻地であったために医療機関に恵まれていなかった。近代的な医療機関の整備は必須であったために、近隣の町村による医療事務組合が設立された。

翌26年多野病院という名称で開院した。(一般27床、結核17床)この時の組合という名称が現在に継承されている。現在のところ名称及び経営形態の変更は考えていない。

② 老人保健施設「しらさぎの里」及び訪問介護ステーション「はるかぜ」を設けてみえますが、それぞれ独立採算制ですか。または、組合に直接属している組織ですか。

A. 平成9年に組合事業として介護老人保険事業「しらさぎの里」、訪問介護事業「はるかぜ」を開設している。独立採算制(それぞれが別の会計)である。

③ 老人保健施設「しらさぎの里」及び訪問介護ステーション「はるかぜ」の利用状況はどのようですか。

A. この5年間は、利用率89%台で推移している。

④ 訪問介護ステーション「はるかぜ」の規模と業務内容はどのようですか。

A. 24時間365日対応していて、設備投資が無いから、黒字計上をしている。

⑤ 医師の過不足の状況はどのようですか。

A. 平成30年71人だが、さらに増員していきたい。

⑥ 医師の大学医学部の系列はどのようですか。

A. 一人を除いて全て群馬大医学部出身である。

⑦ 医師の確保には、日ごろからどのようなご苦労をされていますか。

A. 毎年群馬大学の各教授にお願いをしている。

ホームページで募集をしたり、民間の医師派遣業者に依頼をしている。

現在働いている医師に病院の良いところを宣伝してもらう。

医局員の中から来てもらえるような体制にしている。

各医師が喜んでもらえるように新しい機材や薬剤等にも配慮している。

学会や研究会に要する費用も負担するようにしている。

外科系の専門医、女性医師の確保に努める。

⑧ 高崎市から一部地域に対する負担をお願いしているようですが、詳細はどのようですか。

A. 高崎の吉井町は昭和25年設立当時の組合構成員であったが、その後高崎市に吸収合併されたため、負担割合は藤岡市が90%となっている。

⑨ 組合議会が設けられていますが、主にどのような問題が議題として上がっていますか。

A. 新しい病院を建設したということで、病院についての質問が多い。防災面についての質問も多い。

⑩ 病床の内訳はどのようなですか。

A. 総病床数は399床で、急性期347床(うち地域包括ケア47床)、回復期48床、感染者病床4床(通常は、救急病棟で使用)である。

⑪ 建設費と会計負担金の内訳はどのようなですか。

A. 建設費用総事業費114億円で、別に機材、備品等で約21億円。

財源内訳は、起業債105億円、県費補助1億3千万円、自己財源7億7千万円。

他会計負担金については、企業債の元金利子の負担金、児童手当の負担金、救急医療、資本金収入の方で元金負担金を計上している。他会計負担金の内訳は、救急医療、医療精算金、児童手当である。

⑫ 医師数は正規だけですか。

A. 臨時の医師の数は別で、女医の数は30%くらいである。

⑬ ヘリポートの利用状況はどのようなですか。

A. オープンしたばかりで実績はない。



⑭ 近隣の医療機関はありますか。

A. 真岡市民病院がある。

⑮ しらさぎの里の状況はどのようなですか。

A. 現在の入所待ちは無く、施設的に恵まれている。

病状の重い人は入所できない。認知症患者病床と一般病床が40床ずつ。

各自治体の負担割合というよりも企業債の2分の1は負担金として支払う形となっている。



⑯ 医師、コメディカル等の身分はどのようなですか。

A. 全て地方公務員(公立病院だから西尾市と同じ待遇)。

⑰ 建設に至るまでの主な経緯はどのようなですか。

A. 平成15年、外来機能と入院機能を分け、外来センター19床を開設した。分けた理由は、大型の医療器械を導入し、高度先進医療に取り組んだ結果、患者数が増加したことと、旧入院棟が町の中心部にあったため、駐車場の用地確保が困難となり現在地に移転した。

外来センターを建てるために大きな起債を起こしたことから、暫く赤字が続いたが、平成20年DPCの対象になってから黒字となった。

入院棟と外来棟との間の距離が1.5km離れていたために、医師ともに不都合を感じた。

これらを解消するために昨年29年11月に、入院棟と外来棟を統合して急性期医療を中心とした新たな病院として発足した。職員は、プロパーばかりではなく外部からも採用し、群馬県においてトップランナーを目指す。

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

- ・ 藤岡総合病院は、1名を除く全ての医師が群馬大学出身であるということであり、このことは、過日、視察させていただいた桑名総合病院の医師全てが三重大学出身者であったということに共通している。

群馬県も三重県も大学医学部が一つしかないことが、逆に大学医学部と病院との信頼関係につながっているものと信ずる。

つまり、お互いに他の大学医学部と当該病院の信頼関係が、必然的に硬くなっているということである。

西尾市の場合は、愛知県下だけでも4つの医学部が存在し、その選択肢に困らない環境にあるだけに、各大学医学部との関係が希薄になっているのではないと思う。

とにかく、全国的な医師不足の要因は、大学医学部の研修医制度の改革からもたらされていることに間違いはないのだから、市民の命は国民の命であるということを念頭に、国がその医師不足を来している要因が分かっている以上、その要因を取り除く方向性を打ち出していただくことが肝要かと考える。

また、西尾市民病院に視点を移すが、とにかく例年160億円程度の売り上げのある組織の経営母体のトップが医療事務の素人であることは、早く改めなければならない。

西尾市民病院とは建設に至った経緯や立地条件、周辺を取り巻く環境などが違うので、すべての取り組みが西尾市民病院の改善に有効だと考えにくいですが、最新の医療機器の導入や設備は患者数の増大、またそこで従事する医師や他のスタッフのモチベーションアップにつながると感じた。本市において、将来を見据え市民の安心や健康を考えると、建て替えも1つの選択肢であると感じた。

- ・ 藤岡地域医療構想の中で、このエリアは急性期病床が過剰と言われていた。ほかの病院はなかなか動きがないので当院は回復期病床への切り替えを実施。地域で求められる医療需要は何か、将来想定を踏まえて、医療を確保し、地域住民が安心して生活していくために、医療、介護、予防、福祉、生活支援を考えた地域包括ケアシステム体制づくりを考えている。また、医療人、患者の確保のためには、現在働いてくれている医師や看護師の満足度を上げることには力を入れ、ご意見箱による意見集約にも努めていた。当たり前のことの徹底こそが、重要であると教えられた。

西尾市民病院においても、将来想定を明確にし、西三河医療圏における強みをもっとアピールするとともに、すべての関係者の満足度を上げる体制づくりが必要であると感じた。

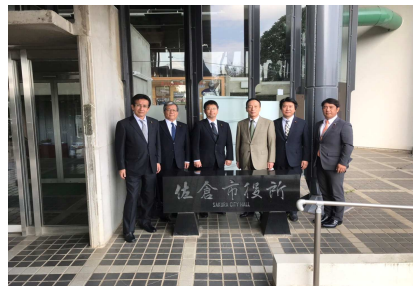
【2 日目】

千葉県佐倉市

「学校プールの民間活用について」

【日時】平成 30 年 10 月 18 日（木） 10 時 00 分～12 時 00 分

【場所】佐倉市役所 議会棟 第 1 委員会室



1. 佐倉市の概要

佐倉市は、千葉県北部、下総台地の中央部に位置し、都心から 40 km、成田国際空港へは東へ 15 km、県庁所在地の千葉市へは南西へ 20 km、市北部には印旛沼が広がっている。面積は 103. 69 km²、人口 171, 686 人（2018 年 4 月 1 日現在）である。小学校 23 校（8, 505 人）、中学校 11 校（4, 175 人）（2018 年 10 月 1 日現在）。

小学校 6 年生を対象に郷土佐倉に誇りと愛着を持てるよう、『佐倉学』を積極的に推進している。また、全ての小・中学校で自校方式の給食を実施し、学校給食を活かした食育の推進に力を入れている。

2. 調査事項の概要

学校プールの民間活用の経過説明

- ・平成 20 年 9 月より検討し始め、『公共施設のマネジメントをしていかなければいけない』との考えから、市の公共施設の状況を把握するとともに施設の更新という今後予想される課題を市としてどう取り組んでいくのかを基に、基本方針を策定した。その中で、三つの方針と七つの方策を立てて取り組んでいた。
- ・国からの長寿命化計画策定の要請により、平成 28 年度に公共施設等総合管理計画を定めた。公共施設を将来に向けて 40 年間で 20%削減を目標としている。
- ・しかし、現在古い図書館の建て替えを検討しているが、教育委員会からも、利用者からも面積を広くしてほしいという要望があり、周辺の公共施設の集約化も考えていたが、様々な要因で複合化は難しい。古い施設を建て替えるときに、バリアフリーを意識したり、エレベーターを二階建てでも取り付ける必要があり、面積はおのずと増える傾向になってしまい課題となっている。
- ・小中学校における水泳指導に関する基本的な考え方は、平成 24 年 6 月に教育委員会で定めている。定めるにあたり資産管理経営室と入念に打ち合わせをした。
- ・耐震工事の関係をきっかけとして、各学校ごとに学校プールが存続した場合と民間プールに委託した場合のコストとサービスの比較をし、メリットが大きい学校でまず取り組むこととし、その後は適宜検討することとした。
- ・水泳指導について、業務委託することにより、プール施設、指導業務、移動手段を確保し、円滑な水泳指導に資することを目的としている。
- ・平成 25 年度から佐倉小学校、翌 26 年度から西志津小学校の 2 校において民間プールを利用した取り組みを始めた。
- ・実施前の計画段階では、地元住民からの反対の声は大きく、何度も、何度も説明にあたり、ご理解いただいた。特に佐倉小学校は最も古い伝統校であり、加えて、地元の方の寄付で造ったプールであったため、厳しい意見が多かった。
- ・実際に利用し始めてからのアンケートでは、子どもからも、親からも、先生からも高評価である。温水プールであるため、特に天候に左右されない点と健康管理の点から、保護者からも、

子どもたちからも、ありがたいと。今のところマイナスの意見は皆無である。他校も可能であれば実施してほしいという意見が教員組合からきている。

- ・アンケートだけでは泳力は測れない。ただし、多くの大人により指導を受けることにより、今まで以上に、子どもたちに興味がわいていることは事実である。
- ・利用方法は、6月と9月の12日間ずつを各校に割り振り運用している。
（例）タイムスケジュールとしては、1・2時間目で1年生をバスでプールに運び、3・4時間目で2年生をバスでプールへ運ぶ。プールを終えた1年生を乗せて学校へ帰り、12時台で2年生を学校へ運ぶ。午前中を貸し切りとして、市民との接点は断つ。
- ・プール内ではクラス担任とインストラクターが指導に当たる。それとは別に上から全体監視している安全管理担当者をプール外に2名配置する。
- ・教員だけの安全管理よりも、インストラクターもいるのでより良くなったと評価できる。
- ・送迎バスは、中型で40名程度乗ることが可能。だいたい1クラスに1台を当てる。おおむね移動距離は6km以内、所要時間20分程度である。
- ・教育指導要領によれば、学校プール指導はおおむね10時間程度とされているので、送迎を含めた8時間は問題ないと考えている。
- ・指導にかかる経費の内訳は、指導料、バス運行費用、施設利用料、その他諸経費であり、今年度は、一人当たり5,874円/4日（利用実績）であった。
- ・実際には、民間プールの受け入れ条件と市のお願したい条件がマッチしない。これは、インストラクター費用の問題、バスによる送迎の問題、それと利用できる期間と時間の問題が大きい。
- ・民間プールとしても、貸し切りにすることでスクールが開催できなかつたり、午前中のお客様が逃げてしまったり、とデメリットがあるため、現在3校目を考えるにあたり、受け入れていただけたところがない。
- ・佐倉市には、屋外の市民プールが二つある。老朽化しているので、これらを屋内温水プール化にして各学校を受け入れる集約化が可能かどうかの検証を実施している。このメリットとしては、年間を通しての利用が可能となるので、学校が利用している以外の部分で市民が利用することが可能となり、学校にかけていた予算をそのまま市民サービスを付加することができると考えられる。また、インストラクターを含めた委託を想定しているので、泳力の向上も見込むことができると考えている。
- ・小学校に若い女性教師が増えていること、老朽化して建て替えを必要としていること、民間プールの受け入れのキャパが少ないことなどはあるけれども、水泳指導を止める考えは今のところ全くない。
- ・現在は、プールの大規模の改修は全く考えていないし、建て替えもない。現状は、使える状態を何としても維持する。幸い大きな不具合はない。佐倉小学校のプールは、築後58年間利用できたので、おおむね60年間は大丈夫ではないか。
- ・今後は、集約化をするのか、委託を進めるのか、今まで通り各学校のプールを利用していくのかを経費とサービスの面から調査研究している。

3. 主な質疑とその回答

事前質問に対する回答、ならびに当日お聞きした質疑に対する答弁は、上記の「学校プールの民間活用の経過説明」のとおりです。

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

- ・ 民間プールの利用は行政にとっては実によく考えられた施策である。しかし、これを市民に納得させることは容易ではない。机上論では成り立っても、やはり現実問題としての民間プールの受け入れをなかなかできない状況も十分に理解できる。それでも、数字を使って丁寧に説明すべきであり、西尾市としても、今後は条件さえ合えば、集約する方向に向かうべきと考える。民間プールとの話し合いこそが、この考えの肝であるが、長期的にみると民間プールが、必ずしも最善ではないと感じた。やはり市営の温水プールを造り、そこへ集約することこそが長期的展望から考えると必要であるし、今後の学校プールの在り方を考えるうえでも、また市民の、特に高齢者の健康維持を推進するうえでも、市営の温水プールを造る必要があると再認識させられた。佐倉市の職員の考え方にうなづくことの多い視察であり、大変参考になり感謝している。
- ・ 佐倉市においては、市内34の小・中学校のうち大規模な改修を必要とする築25年から30年を迎えたプールが、全体の約7割で西尾市と同じような状況である。しかし本市と違い、受け入れ条件を満たした民間プールが1事業者しかなく、1事業者で受け入れ可能学校数は2、3校だと説明があった。
そのことだけ考えても、すべての学校の民間移行は難しく、建て替えも必要だと感じた。

【3日目】

静岡県富士市

「学校の暑さ対策『クールネックタオル』の取り組みについて」

【日時】平成30年10月19日（金） 13時30分～15時30分

【場所】富士市役所 会議室



1. 富士市の概要

富士市の人口は25万4千人で、浜松市、静岡市に続いて静岡県第3位の人口を誇り、静岡県東部で富士都市圏に属します。市街地から見て東に愛鷹山塊、北方に富士山が位置し、その富士見台は富士山がある風景100選に指定されています。

また、駿河湾に面し、西に湾に流れ込む日本三大急流の一つである富士川が流れており、海岸線は10km、周囲は95.9km、東西に23.2km、南北に27.1kmの広さがあります。

2. 調査事項の概要

今回は、富士市の学校の暑さ対策『クールネックタオル』の取り組みについて視察しました。今年の災害的猛暑を受けて、全国的にエアコンの設置が騒がれ検討が進められる中で、同市は、公立小中学校にある普通教室の数、約740室全てにエアコンを設置した場合、導入費は1教室当たり約300万円、総額約23億円。さらに光熱費やメンテナンスなど年間約1500万円のランニングコストがかかる見通しを市教育委員会の試算がされました。

「子どもたちの学習環境を快適にしたいが、エアコン設置はコストが高く導入にかじを切れない。」こうしたジレンマを解消しようと、富士市教育委員会は今夏、保冷剤入りの「クールネックタオル」とハッカの香りを活用した暑さ対策の調査研究に乗り出し、市内の小中学校8クラスで実施し、効果を検証しました。

今回の調査の経費は冷凍庫やタオル、保冷剤の購入費などで1教室当たり約3万円。体育や外遊びで汗をかいた後、室内を一律に冷やすエアコンだと外気温との差で体調を崩す子どもが出る恐れもあるが、今回の手法は個々に合わせた対応ができる利点もあるという革新的な発想での取り組みであり、西尾市においても参考になるのではないかと思い視察先に選定しました。

静岡新聞7/19付記事の中でも、「調査期間は夏休みを除く7～9月。10月には対象クラスの児童生徒や教員にアンケートを行う。市教委によると、県内では例のない取り組み。教育総務課の斉藤数弘主幹は『アナログだけど、エアコンに頼らない暑さ対策として理にかなっているはず。成功すれば、他市町の参考にもなる。』と意気込んでいる。」との記述もあり、期待の持てる視察になると確信をもって臨みました。

3. 主な質疑とその回答

① 施策発案が打ち出された背景・経緯をお聞かせください。

A. コストを考えると、当時はエアコン導入には踏み込めなかった。

より高額な資金を必要とした学校施設の老朽化問題が優先すべき課題であったため。

② 本計画の主導（主管）はどこですか？

A. 教育委員会が主導した。

③ クールネックタオルの効果の検証状況はどのようですか。また、実施した結果の効果と課題、今後の対応はどのようですか。

A. コスト面、手軽さ、また当時革新的な取り組みであったため、メディアにも取り上げられ上々のスタートを切った。しかしながら、本年の異常気象により、市民からエアコンの導入の要望も挙がり、大成功とは言えない結果となってしまった。

④ エアコン設置も決定しているとのことですが、今後の活用の考えはどのようですか。

A. 全国的な猛暑での痛ましい事故が頻発したため、市民からは非難が殺到した。

結果、富士市でもエアコン設置の方針を示すに至った。

しかし、屋外活動での活用を今後も継続していき、引き続き調査していくこととなった。

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

・ 今回、富士市の視察をさせていただいたが、「学校の暑さ対策『クールネックタオル』の取り組み」は子どもたちの健康を守る、教育部の中でも、大変興味深い着眼点であると思いました。

富士市自体は、多くの自治体同様、世論の流れの中でエアコン設置を決定し実施していくこととなりましたが、担当者からも回答があったとおり、エアコン設置は「熱中症対策」というよりも「教育環境の改善」であり、熱中症になる屋外活動に対する対策として今後も、調査研究を進められるとのことでした。

また、何よりも報告をいただいた担当者の並々ならぬ熱意も参考になりました。「子どもたちのために何か良い改善を」と、自作の壁掛けの扇風機用ハッカ油入りの容器を作成し、実施していることや、今回の視察のために作成していただいたパワーポイント資料、プレゼンテーションには大変思いがこもっていると感じました。

西尾市の職員にも、熱意をもって様々な課題とも向き合っていたいただきたいと思うと同時に、今も熱意をもっている職員のモチベーションを落とすことなくチャレンジできる環境を整えることが重要であるとも感じさせられました。

・ エアコン設置に消極的であった富士市教育委員会は、保冷剤入りの「クールネックタオル」とハッカの香りを活用した暑さ対策を試みた。体育や外遊びで汗をかいた後に個々に合わせて首に巻く手法は、導入費用も安価で、よく考えられた面白い試みと注目していた。西尾市としても、十分に研究する必要があると思っていたが、180°方向転換を余儀なくされた。周辺市町の動向や世論の声には敵わない。残念ながら、富士市もエアコンを全教室に導入することとなってしまった。しかし、エアコンは万能ではない。

今回の視察で異常な暑さの時に校外学習や運動会などにはクールネックタオルを巻くと熱中症に効果があることはわかったが、教師からの支持が思ったより低いことに驚いた。自転車に乗る時にヘルメットをかぶるように、暑い日に外へ出るときには使用すればよいと思ったが意外である。ただ、富士市教育委員会の職員のアイデアとやる気・熱い思いに感心させられた。

西尾市職員の熱き思いに触れ、一緒になって西尾市のための施策を作りたいと思った。

収支報告

項 目	支出金額	備 考
調査研究費	456,699円	旅 費 444,630円 手土産代 12,069円
計	456,699円	